

# 稼働時の安全上の注意事項について

## 非定常作業

非定常作業とは、保守作業、トラブル対処など、通常の作業と異なる作業をいい、休止後の稼働時などもこれに該当します。労働災害の中には、非定常作業中のものが多く含まれています。

# なぜ、非定常作業時は 労働災害が起きやすいのか？

1. 事前の設備面、管理面の対策が不十分
2. たまに行う作業で、作業手順が決まってい  
ない。決まっていなくても、手順通り実施しない
3. その作業に習熟していない
4. 連携作業が多く、複数の人に関わる
5. 事前の連絡・相談が不十分で作業指示が  
不明瞭
6. 時間的に余裕がない状態

# 非定常作業

1. 保全作業
2. トラブル対処作業
3. 移行作業
4. 試行作業
5. 休止後の稼働作業

# 休止後の稼働作業注意事項

1. 事前打ち合わせ
2. 準備
3. ツールボックスミーティング (TBM) 等
4. 安全に作業できる状態の準備
5. 試運転

上記項目を、以下チェックリストにしてみましたので、点検をしてみてください。

# 1. 事前打ち合わせ

複数の作業者が共同で作業を行う場合は、事前に打ち合わせを実施し、作業方法、作業分担、連絡、および合図の方法等の周知を図ること。

- 関係者全員を打合せの場に集めたか？
- 作業指示は、書類または現物で示したか？
- 作業分担を明確にしたか？
- いつ、誰が、誰に、どこで、どのように連絡や具体的な合図を共有したか？
- 復唱して、作業指示の理解度を確認したか？

## 2. 準備

作業の準備段階で次の措置を講ずること。

- 作業に使用する工具、用具、仮設機材等の点検・準備をしたか？
- 稼働する機械設備の始業前点検の実施をしたか？
- 必要な動力源の遮断および施錠、掲示および表示の解除手順の確認をしたか？
- 資格または安全衛生教育の修了を必要とする作業への有資格者等の配置の確認をしたか？
- 作業の種類に応じた保護具（墜落制止用器具、保護めがね等）の準備をしたか？
- 管理者の許可を要する作業についての許可の取得をしたか？
- 作業者は早く立ち上げようと考えていることがあるので、落ち着いて慎重に作業するように指示をしたか？焦らせていないか？

### 3. ツールボックスミーティング (TBM)等

作業開始前に、ツールボックスミーティング等において次の事項を周知徹底する。

- 作業者の健康確認をしたか？
- 作業手順書に基づく作業内容を全員で把握したか？
- 作業手順書がない場合は、監督者が書類や現物で具体的に説明したか？
- 誰が、誰に指揮・命令し、役割分担を明確にしたか？
- 連絡の方法や具体的合図の方法を決めたか？
- 注意事項、禁止事項について強調するとともに、その理由を説明したか？
- KYを実施したか？特にいつもと違う状況を抽出したか？
- 一人作業では自問自答KYTを実施したか？(非定常作業に有効)
- 変化が生じた場合の連絡・処置方法の確認をしたか？

# 4. 安全に作業できる状態の準備

機械設備を停止した状態から、稼働する前に安全に作業できる状態を整えるために、次の事項を実施する。

- 稼働設備の範囲内の人払いをしたか？
- ロックアウトを解除する場合の手順に間違いはないか？
- 電源を投入する場合は、まず2次側電源が閉になっていることを確認し、1次側から2次側へと投入実施したか？
- 圧力設備の残留圧力等の確認はしたか？
- 自重による不意作動(落下など)はないか？
- 静電気の除去をしたか？
- 酸素欠乏や有毒ガス等の確認はしたか？
- 必要な保護具は準備したか？
- 保護カバーや覆いはしてあるか？



# 5. 試運転

いきなり本稼働に入るとトラブルになることがある。試運転で異常がないことを確認する。

- 稼働設備の範囲内の人払いをしたか？
- 異常が生じた場合の連絡・処置方法の確認をしたか？
- 手動運転で異常がないか確認したか？
- 異常な状態の時には、「止める」、「呼ぶ」、「待つ」を周知したか？
- 複数人での作業では、具体的な合図を取り決めているか？
- 本稼働してもしばらくは様子を見ているか？

※各項目は広く活用できるように一般的な項目としています。現場の状況を踏まえ、項目の追加等を行いながら活用してください。